

2017年10月25日

立教大学国際学術研究交流制度
2017年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	学校・社会教育講座・教授
	氏名	中村 百合子
受入学部・研究科・研究所		学校・社会教育講座
招へい 研究員	所属・職	Professor and Director, School of Information, College of Applied Sciences and Arts, San José State University 協定の有無：無 所在国：米国
	氏名	Sandra Hirsh
招へい期間		2017年10月5日～2017年10月21日（17日間）
研究経費		455,910円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

年月日	活動内容
2017年10月5日（木）	来日 リサーチ・イニシアティブセンター、講座事務室等訪問 中村とのキャンパス・ツアー、滞在中の研究に関する打ち合せ
2017年10月6日（金）	立教大学池袋図書館見学 中村との公開講演会の内容に関わる検討 学内公開講演会実施（18:20～20:30）、池袋キャンパス 1202 教室、司書課程登録学生、立教大学池袋図書館職員を中心として約 80 名が出席。タイトル「変わりゆく時代の図書館、図書館情報学教育、図書館情報専門職（The Global Transformation of Libraries, LIS Education, and LIS Professionals）」

2017年10月9日(月)	<p>中村と、将来の調査、研究に関わる意見交換 立教大学図書館長の豊田由貴夫教授、博物館学芸員課程主任の川口幸也教授らと面会、ご挨拶 学生に対するミニレクチャ “Conversation with Dr. Hirsh” 第1回「女性のキャリア形成」(18:20~20:10)、2号館1階グループ学習室、司書課程登録学生を中心に9名参加</p>
2017年10月15日(日)	<p>中村と、将来の調査、研究に関わる意見交換</p>
2017年10月19日(木)	<p>リサーチ・イニシアティブセンター長の加藤睦教授と面会、のち学校・社会教育講座委員長の丸山浩明教授と面会。図書館情報学教育のトレンド等についての意見交換 香港大学の Dickson Chiu 博士、同大学院生の Andrew Yew 氏、中村らと SFR (共同プロジェクト研究「諸外国および日本における文化・情報専門職養成の比較研究」) に関わる意見交換 豊島区立中央図書館訪問、見学 東京大学教育学部図書館情報学研究室訪問、院生3名と交流 株式会社・未来の図書館研究所において、学外公開講演会(学内で実施の講演とほぼ同内容)、約40名が参加。終了後、同研究所の永田治樹所長(元・立教大学司書課程特任教授)らと交流</p>
2017年10月20日(金)	<p>SFR (共同プロジェクト研究「諸外国および日本における文化・情報専門職養成の比較研究」) 研究会、2号館1階会議室に参加。研究分担者の佐藤真実子、香港大学の Dickson Chiu 博士、立教大学院生の宮瀧智佳子、香港大学院生の Andrew Yew との共同研究打合せに参加。今後も継続的に研究チームのメンバーとして参加することとなった。 中村、香港大学 Chiu 博士と、将来の大学間連携に関する意見交換 学生に対するミニレクチャ “Conversation with Dr. Hirsh” 第2回「企業の世界と図書館の世界」(18:20~20:00)、2号館1階グループ学習室、司書課程登録学生を中心に9名参加</p>
2017年10月21日(土)	<p>(台風21号が近づいていたため1日、予定を早めて) 離日</p>

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

現在、日本の図書館情報学教育では、高度専門職養成の実現とそのための養成教育の刷新が課題となっている。図書館のシステム、そして資料そのものが電子化し、人々がオンライン上に情報を求める時代にあって、物理的な図書館や図書・雑誌等の取り扱いに関する学修を中心とした日本の司書課程における図書館専門職養成を刷新する必要性は明白である。カリキュラムの変更ももちろんのこと、養成教育刷新のための方法の検討もはじまっている。例えば、国際化とオンライン教育の実現が考えられており、外国人教員の雇用による英語授業やオンライン教育の導入によるよりフレキシブルな環境での学修・教授などが日本でも見られるようになった。ただ、どの取り組みも、単独の大学で試みられており、資金面や教員配置といった課題から、継続性に不安があることが、受入教員（中村）の過去の調査で明らかになっている。ハーシュ教授の現在の研究・教育活動とキャリア形成の過程は、そのような日本の図書館情報学教育の課題の解決に向けて、重要な示唆を日本の図書館関係者に与えてくれるだろうと考え、学内外で幅広く多くの方たちと交流していただくべくさまざまな場を用意し、ハーシュ教授には快く参加していただいた。

実際、学内外での講演会、交流等の場で、日本の図書館関係者から大きな反響を得ることができた。オンラインの形態で、図書館専門職団体の認定を受けて高度図書館情報専門職養成をすでに実現しているサンノゼ州立大学のハーシュ教授・同大学情報学研究科長のお話からは、日本の図書館情報学教育の向かうべき方向に加え、これからの高等教育のあり方についても大きな示唆をいただくことができた。本学内の教職員・学生、日本の図書館情報学教員だけでなく、日本の図書館現場で活躍するリーダーたちからも、Dr. Hirsh との継続的な交流を期待する声があがった。